

大分大学広報誌



OITA UNIVERSITY

BUNDAI.OITA



特集

国立大学法人 大分大学

NO.2

2004.4

～ 特集 ～ 国立大学法人 大分大学



法人化準備委員会委員長 おお 谷 眞 忠

本学は平成16年4月1日に、国立大学法人大分大学として新たなスタートを切りました。

平成3年の大学設置基準の改正、いわゆる「大綱化」以降、急速に進められてきた本学における一連の大学改革はいよいよ大詰めを迎えております。

学科・学部・大学院等の組織改革や新設、昨年10月に実現した、旧大分大学と旧大分医科大学の統合、それらと並行して進められてきた法人化問題に関する取り組み、さらには平成12年度の大学予算積算方式の変更への対応、平成13年度から実施された大学評価・学位授与機構による「大学評価」に伴う自己評価の実施などさまざまな改革や改善がなされてきました。

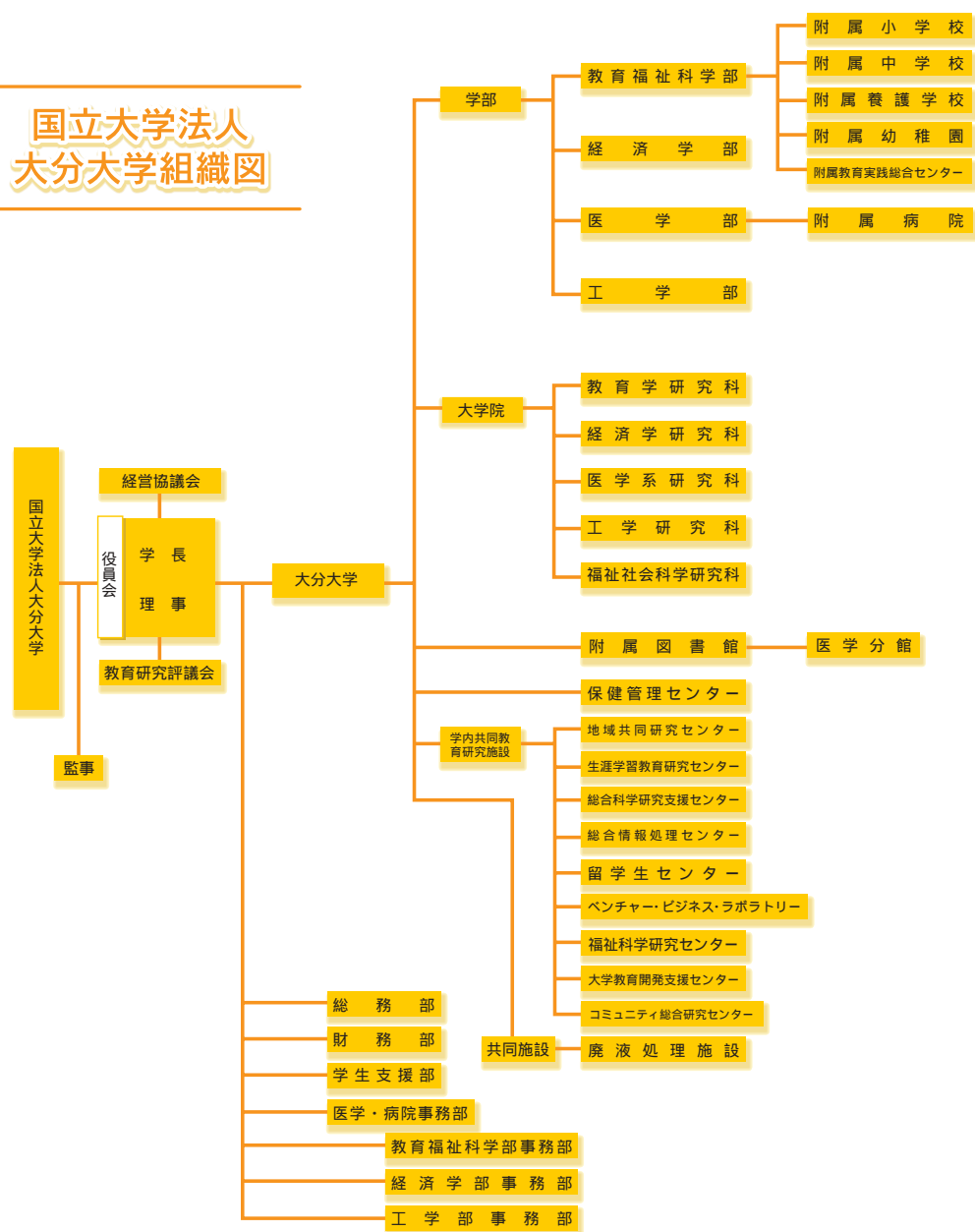
これらの取り組みの根底には、大学を取り巻く環境の急激な変化に、大学がいかに適応していくかというテーマが横たわっていると思われます。すなわち、社会的存在としての本学のあり方そのものが、社会によって問い直され、また大学自身によっても自問されているといってもよいでしょう。本学もまた主体的にこのような問題について問い直し、社会のニーズや期待に謙虚に耳を傾け、応えていかなければなりません。このたびの法人化によって、その必要性はますます大きくなり、本学の責任もまた重いものとなってくるのは間違いありません。

大学の法人化については、これまでさまざまな論議があり、本学においても、いろいろな角度から検討がなされてきました。それらを踏まえながら、本学では統合直後から、「法人化準備委員会」およびその下に設置された組織業務、目標・評価、人事制度、財務会計制度の4専門部会において、具体的な制度設計を中心に、鋭意検討を行いました。

もとより限られた時間であるために、必ずしも十分であるとはいえないにしても、全学の意見聴取を可能な限り実施し、法人化準備委員会と教授会等との間で、フィードバックを繰り返しながら、検討を重ねてきました。短時間の集中的な検討の結果であることもあり、また参考とすべき先例もないことから、今後、問題点が出てくることもあるかもしれませんが、そのような場合には、勇気を持って必要な点検・見直しを進めていかなければならないものと考えます。

(法人化準備委員会委員長)

国立大学法人 大分大学組織図



国立大学法人大分大学 役員

学 長	中 山 巖
理 事（総務担当）	嘉 目 克 彦
理 事（教育担当）	豊 田 寛 三
理 事（研究担当）	野 村 芳 雄
理 事（社会連携担当）	羽 野 忠
理 事（財務担当）	入 江 孝 信
理 事（医療担当）（非常勤）	茂 木 五 郎
監 事	田 村 謙二郎
監 事（非常勤）	秦 野 晃 郎

学生にとっての法人化

本学は、従前の国立大学「大分大学」から「国立大学法人大分大学」となりますが、平成16年3月31日現在で在学する学生諸君の身分異動はありません。大学を卒業、または大学院を修了するために必要な教育課程の履修、その他教育上必要な事項は、新しい大分大学が責任をもって引き継ぎます。

では、学生諸君にとって法人化すると何が良くなるのでしょうか？

法人化すると組織や予算面での自由度が大きくなります。学生諸君や社会のニーズを踏まえて、新しい学科やコースなどの工夫が、大学の判断で可能になります。現段階では学部・学科（課程）、研究科などの組織の変化はありませんが、将来は大学改革によって新しい編成が行われる可能性があります。

また、法人化後は大学の教育・研究・社会貢献・管理運営などが定期的に評価を受けることになります。そのなかで、教育課程、教育方法、教育内容、および教育の成果の評価は、大きな位置を占めています。なかでも学生による授業評価は重要なポイントの一つとなつてきます。大学は、学生による授業評価の結果を参考にしながら教育の改善に努めていきます。意欲に燃

え、努力を重ねる学生諸君の積極的な提言を期待しています。

さらに、進路選択の相談などの学生へのサービスについて、国立大学法人法は、国立大学の行うべき業務であることをはっきりと書いてあります。法人化を機に、学生生活支援の質の向上を図っていききたいと思います。

皆さんご存知のように、本学は旧大分医科大学と旧大分大学が統合して大分大学となりました。統合のメリットの大きな柱として教養教育の充実があります。本年4月からは医学部の学生諸君が、旦野原キャンパスで教養教育を履修することになりました。授業の場での交流だけではなく、課外活動等を含めた交流によって幅広い人間関係が結ばれることとなると思います。平素生活するキャンパスは異なっていますが、図書館や課外活動施設等の利用は、一つの大学の学生ですから、規則等を守って活用してください。

法人化によって、授業料その他の納付金が値上がりするのは、との心配もあるでしょう。国立大学は、学生の経済状況に左右されない進学機会を提供することが役割の一つでした。法人化後もその基本は受け継がれます。大学の授業料は基準となる額（標準額）が定められています。大学が特別の教育サービスを行う場合などを想定し



財務・会計制度の変化

法人化後の財務・会計処理は、平成15年3月に公表された「国立大学法人会計基準（文部科学省令）」、および学内において定める規則等に基づいて行われることになります。

法人化によって、これまでの現金主義会計である官庁会計から、発生主義・複式簿記による企業会計的処理を行う会計に転換され、会計情報の質、透明性の確保が一層求められることになります。

また、大学の裁量が拡大され、学内の予算編成、予算配分は大学の責任と裁量で行うこととなりますが、財源の多くを教育研究等の第3者評価の結果等に基づく国からの運営費交付金（税金）に依存していること、学生からの授業料等で賄われることから、これらを財源とする予算を使用する者の説明責任は、これまで以上に大きくなり、予算をどのように使用し、それによってどのような効果があったかなど説明する責任を負っていると考えられています。

て、10%までを上限として定められることとなっていますが、大幅な増額はありません。本学の授業料・寄宿料などの学生納付金は、16年度は、15年度と同額にしています。

なお、奨学金の貸付等を行っている日本育英会も独立行政法人日本学生支援機構に移管されますが、貸付条件等の変更はありません。

目標・評価について

（中期目標・中期計画）

法人化に伴い、これまでの大学運営と大きく異なるのは、各法人が6年間を周期とした中期目標・中期計画に基づき運営されるということです。中期目標・中期計画は、大学の理念や長期目標のもとに策定されることになっています。

（評価）

大学としての社会に対する説明責任のため、これからは次の評価が予定されています。

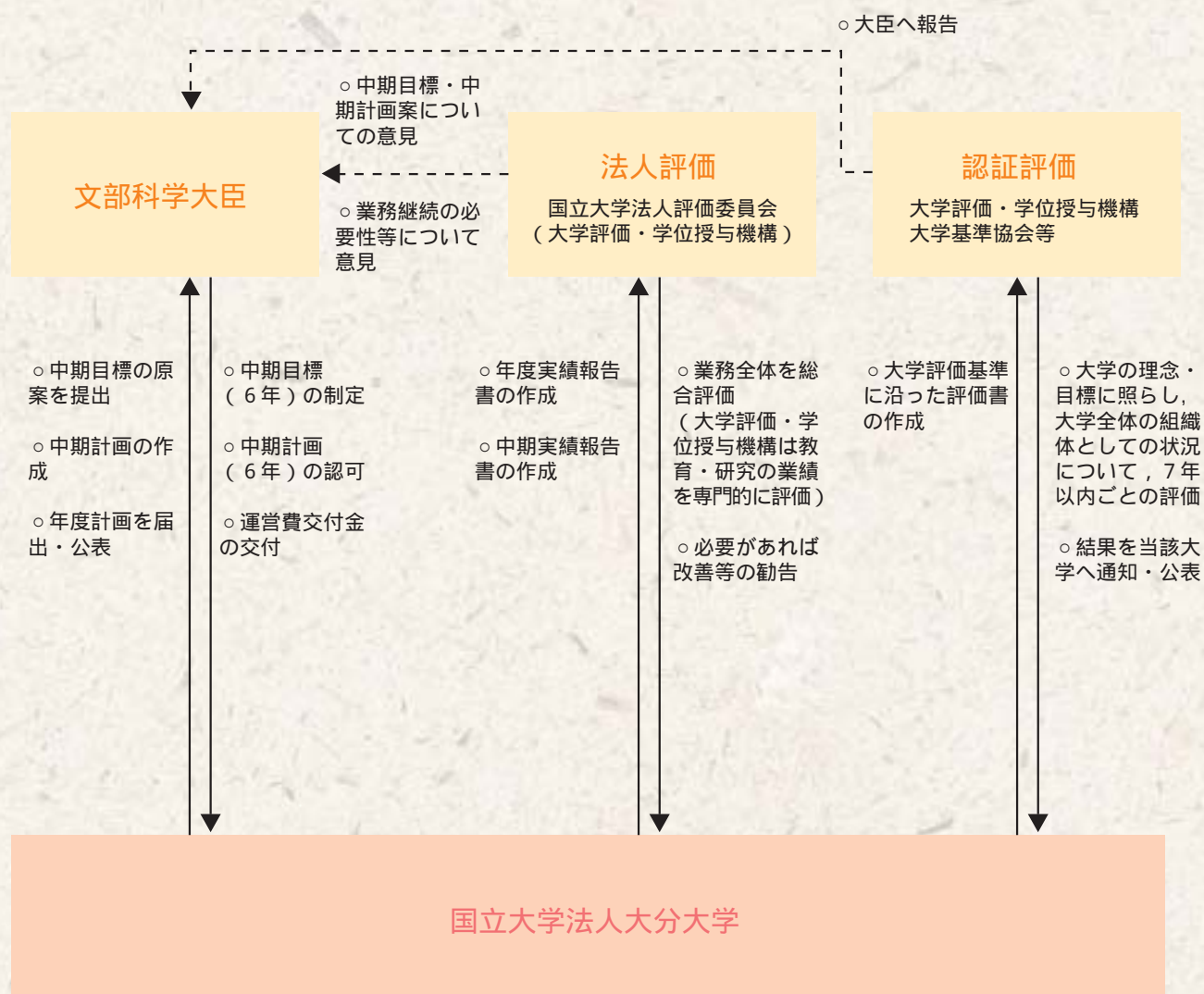
法人の業務全般に対する国立大学法人評価委員会による評価

高等教育の妥当性に対する認証評価

大学自らが行う全学的観点からの自己点検・評価

なお、中期目標・中間計画、評価については、下図のような関係になっています。

目標・評価の関連図



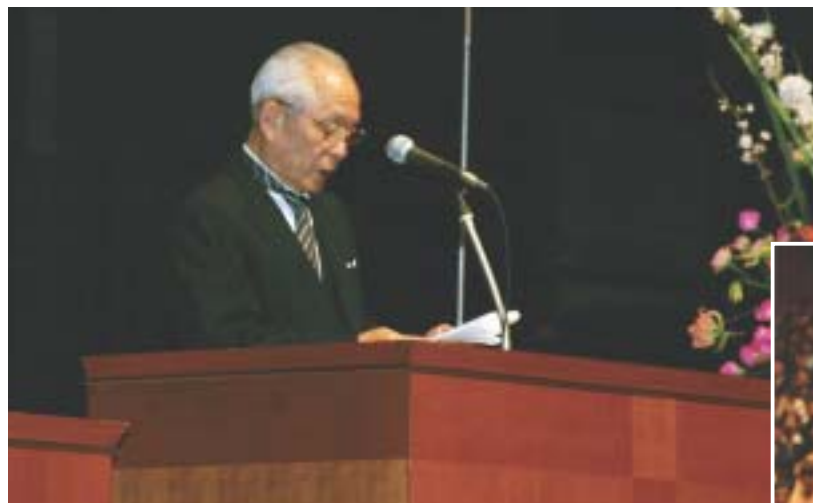
大学の動き

卒業式・学位記授与式

平成15年度卒業式・学位記授与式が、3月25日、大分県立総合文化センター「グランシアタ」で挙行されました。

大分大学と大分医科大学は昨年10月に統合されましたが、今年度の卒業生は、それぞれ入学したときの大学の卒業となります。大分大学では大学院生も含み1,092名、大分医科大学では大学院生も含み175名の学生が、中山蔵学長から卒業証書・学位記を授与され、社会に巣立っていききました。

なお、福祉社会科学研究科では、設置後初めての修了生になります。



告辞を述べる中山学長

卒業証書を授与される総代



就任紹介



総合情報処理センター長
いとう てつろう
伊藤 哲郎 教授
(平成16年4月1日付再任)



生涯学習教育研究センター長
こじょう けんいち
古城 健一 教授
(平成16年4月1日付)



大学院福祉社会科学研究科長
にのみや たかとも
二宮 孝富 教授
(平成16年4月1日付再任)



工 学 部 長
えがみ ただお
江崎 忠男 教授
(平成16年1月27日付)

大学の動き

開催日	演 題	講 師
2月18日	我が31年間をふりかえる ー統計学とコンピュータのはざまー	教育福祉科学部 森 長徳 教授
2月21日	障害児教育に学ぶ	教育福祉科学部 佐藤 新治 教授
1月30日	人と経営	経済学部 山本 勝 助教授
2月 3日	環境激変と会計学の役割	経済学部 野村 健太郎 教授
3月 4日	待遇表現における日英語の比較	医学部 感染分子病態制御 講座（英語） 米田 紘一 教授
3月11日	体のリズムに基づく新しい医学を目ざして	医学部 脳・神経機能統御 講座（精神神経医学） 永山 治男 教授
2月27日	大宮、東京 そして 大分	工学部 機械・エネルギーシステム工学科 渋谷 壽一 教授

平成16年3月31日をもって定年退官されました先生方の最終講義が左記のとおり開催されました。聴講に訪れた学生・教職員は、最後の講義に聞き入り、教育・研究ならびに本学発展への多大なご尽力に対し、惜しめない盛大な拍手をもって、感謝の意を表していました。

平成15年度退官記念最終講義



廃液処理施設長
もり きち みつ あき
森口 充瞭 教授
(平成16年4月1日付)



コミュニティ総合研究センター長
ふかみち はる お
深道 春男 教授
(平成16年4月1日付再任)



福祉科学研究センター長
みや がわ ひろ あき
宮川 浩臣 教授
(平成16年4月1日付)



附属図書館医学分館長
みすみ じゅんいち
三角 順一 教授
(平成16年4月1日付)



留学生センター長
くす もと ひろし
楠本 宏 教授
(平成16年4月1日付)

学内トピックス

F D講演会 「第1回eラーニング研究会」

今年度のFD講演会は、メディア教育の活用について取り組み、第1回目として「WebCTを教育基盤としたハイブリット授業環境の構築とその効果」と題して、広島大学の安武公一氏が講演されました。

第1部の講演会は、教養教育棟SCS教室において30名ほどが参加し、「予習」→「対面講義」→「復習」の学習サイクルにおいて、CMS (Course Management System) とWebCTを組み込んだハイブリット授業が、主体的学習意欲の形成を促進させることに非常に効果があるという研究成果を報告されました。

教室における対面講義と、その日の授業後における「オンラインクイズ」→「ディスカッション」→「教育スタッフによる学習支援」を主軸としたWebCTの活用をハイブリッド的に使った授業実践と、その際にTAの果たす役割が学生の主体性を引き出す大きな要因として働いているということでした。



第2部の研究交流会では、総合情報処理センターに移動し、参加者にWebCTシステムの実験をしてもらいな

がら、意見交換など交流を行いました。その際、WebCTの豊富な実践を行っている九州大学の先生方にも参加願いが指導いただきました。

WebCT活用の有効性と、教育スタッフの機能と役割の重要さなどについてのお話は、興味ある、そして今後のFDにとっても示唆のある有益な研究会でした。

平成15年度 経済学部講演会

経済学部では、毎年講演会を開催しています。平成15年11月から16年1月にかけて、3つの講演会が開催されました。どの講演会も学生・教職員・一般市民の方が多く来場され、熱心に講師の話に聞き入っていました。

演題等詳細は下記のとおり。

開催日	演 題	講 師
第3回 15年11月25日	深圳経済特区と香港の経済発展	中国深圳大学経済学部長 張 健軍 教授
第4回 15年12月12日	由布院温泉のまちづくりの取り組みについて 「アタリ」プログラムを目指して	由布院観光総合事務所 事務局長 米田誠司 氏
第5回 16年 1月13日	ロシア経済と石油・天然ガス	一橋大学経済研究所教授 久保庭 眞彰 氏



米田 誠司 氏



張 健軍 教授(右)
と通訳の薛教授(左)
久保庭 眞彰 教授

福祉科学研究センター 講演会

センターでは、1月21日、個々の状況に適合した福祉用具開発における産学官の連携」という演題で講演会を開催しました。

講師は京都市長寿すこやかセンター福祉用具相談役の小嶋寿一氏で、数々の福祉用具を開発してこられた同氏の講演に加え、同氏に展示していた



小嶋寿一氏

たいた福祉用具にも定員を超える参加者の興味は大いに注がれ、大変盛況でした。



また、2月17日には、講師に福岡大学スポーツ科学部教授の大谷善博氏をお迎えして、「障害者スポーツから発信する『こころ』のバリアフリー」と題して講演会を開催しました。同氏のユーモアをまじえた講演に参加者で埋め尽くされた会場は盛り上がり、こちらまで時間を忘れるほどのすばらしい講演会でした。



大谷善博氏

生涯学習教育研究センター 講演会

生涯学習教育研究センターでは、平成16年2月12日に、政策研究大学院大学の今野雅裕教授を講師に招き、「生涯学習の観点から見た大学開放と評価」と題して、講演会を開催しました。今野教授は、先般実施された大学評価・学位授与機構による大学評価において、教育サービス面における社会貢献の分野を担当されています。

講演会では、4月から法人化を控え、さしせまった課題の一つである大学開放や大学評価について、さまざまな先進事例にもとづく具体的でわかりやすい今野教授の話に大学の教職員は、熱心に聞き入り、これからの大学開放のあり方を考える一つの契機となりました。



「生涯学習の観点から見た大学開放と評価」について講演する今野教授

学内トピックス

中国政府からの奨学金を 本学留学生の2名が獲得

中国政府は優秀な私費留学生を励ますために、他の国に留学している中国人留学生に対して、初めて2003年に「優秀自費留学生奨学金」制度を設けました。

この奨学金の選考要件では、留学している国の法律を遵守していること、豊かな研究成果が見込まれること、研究の道徳を守っていることの3つを主な条件としています。

この条件によって、2003年度に日本に留学している約6万人の中国人私費留学生の中で、その奨学金を獲得した人は25人ということでした。九州地区では4人が選考され、その中に本学の大学院工学研究科博士後期課程3年の劉作（リユウ・サク）さんと医学系研究科博士課程3年の孫兵（スン・ヘイ）さんが奨学金を獲得しました。これは、2人の今までの努力が認められたものと思います。

2003年12月には中国福岡総領事館の教育領事2名、中国東京大使館から1名が本学を表敬訪問され、学長への挨拶、劉作さんの指導教官である佐藤誠治教授への挨拶、留学生センター、留学生寄宿舎を視察されました。

本学で学んでいる留学生への中国政府の評価は高く、中国人留学生の皆さんもこの2人に続くよう勉学に励んでください。

卒業生との交流会

附属養護学校では、毎年2月に同窓会を行っています。高等部では、その同窓会に合わせて、卒業後の生活に目を向けることを目的に「卒業生との交流会」を計画しています。今年も2月15日にその交流会が行われました。

今年の交流会には、卒業生45名・OBの先生7名の方々に参加をしていただき、高等部生徒21名と交流を深めました。高等部の生徒の企画・進行で、卒業生への質問コーナー、レクリエーション、会食を行いました。卒業生への質問コーナーでは、「給料を何に使っているか」「一人暮らしをするためにがんばること」などの質問に「好きな物を買う、生活費に使う」「洗濯や食事をするにがんばっている」な



交流会の質問コーナー

どの先輩からの答えに、生徒たちも真剣に聞き入っていました。

レクリエーションでは、『友だちになる』『ダンスの後に、○×ゲームなどを行い、久しぶりにあう友だちや先生と楽しいひとときを過ごしました。卒業生から「楽しかった。また来年も来ます。」の言葉に企画した高等部の生徒もうれしそうでした。

香々地少年自然の家での メンタルフレンド活動

大分県立香々地少年自然の家では、不登校傾向や集団になじみにくい引きこもりがちな青少年を対象に、「自然大好きふれあいキャンプ」という宿泊キャンプを、年に数回行っています。このキャンプに、メンタルフレンドと呼ばれるスタッフとして、教育福祉科学部で主に心理学を専門に学んでいる学生たちが参加しています。このキャンプに参加する子どもたちの中には、対人関係が苦手であったり、とても気持ちが悪くつまずきやすい子どもたちもいます。学生たちは、そうした子どもたちの気持ちに寄り添い、子どもに信頼されるお兄さん、お姉さんの存在になろうと奮闘します。子どもたちも、そんなメンタルフレンドに信頼を寄せ、野外活動や室内レクリエーションを共に楽しんでいます。

附属中学校修学旅行 「人の生き方に学ぶ」

本校2年部では毎年2月に4泊5日の修学旅行に出かけます。

この修学旅行では25年ほど前から自主研修を行っています。各班ごとに自分たちで行き先を決め、計画を立てて研修をしてきます。今年の修学旅行では「人の生き方に学ぶ」というテーマを設定しました。

このテーマのもと、各班で2人ずつてくる人を決めました。多くの班はインターネットなどで調べて、和菓子屋さんや寺社など様々な相手先に電話をかけ、会っていただく約束を取り付けていました。また保護者の援助で会えるようになった陶芸家、染色家、狂言師の方々などもありました。それらの方々からは貴重な人生観、職業観をうかがうことができ、充実した自主研修になったようです。



陶芸家河合哲徳さんのお話を聞く

サークル紹介

CIRCLE PRESENTATION

巨野原キャンパス

美術部

美術部は現在27人の部員で活動しています。主に学園祭での展示、アートプラザでの展示(白蔵展)の年2回の展示会を目標にして活動しています。昨年度は2つの展示会とも協同作品を出展し、みんなで集まって板に絵を描いたりしました。また、今年度は「日常生活においてい



「黒猫」



「白蔵展」に出展した作品

「活花」

にアートを見出すことが出来るか!!」という目標を掲げ、定期的に美術館に行ったり、海や山に行ったりして、そこで見つけたことが出来たらいいな、と考えています。また、今までは展示会にならないと部員同士でもどのような絵を描いているか、どのような物を作っているかが分かりませんでした。そのため、詳しくは決めています。今年度は2ヶ月に1回ぐらいのペースで作品を見せ合ったりしたいと考えています。

バドミントン部

こんにちは。私たちバドミントン部は今年も行われる九州リーグに向けて、男子2部昇格、女子1部昇格を目標に、部員全員一致団結し、日々練習に励んでいます。大学生になつてからバドミントンを始めた人が多い部ですが、それでも常に向上心を持ち練習に取り組んでいるので、初心者の上達ぶりは経験者を脅かす



練習風景です。第2体育館で練習しています。いつでも、見学歓迎です!!

ほんです。それは、部員全員バドミントンが大好きだからです! また、個性あふれる部員ばかりで、毎日の部活がとても楽しく、練習以外でも先輩後輩の仲がとても良い部です。この関係がバドミントン部の元気の源です!



挟間キャンパス

医学部軽音楽部

こんにちは。医学部軽音楽部です。軽音楽というと、分かりにくいですが、要するにバンドのことです。練習は主にバンド単位で部室で行っています。

活動としては春と冬に市内のライブハウスでの定期演奏会、夏他大学との合同合宿、秋の医学部祭での演奏などがあります。また、バンドによっては県内の色々なライブハウスに出演したりと、活発に活動しています。

私達は5月に大分で開催される、九州山口医科学生体育大会(通称九山)に向けて、現在猛練習中です。九山とは毎年九州と山口の医学部の学生が集まった大会のことです。軽音楽部門は今年は大分で行うことになりました。主管校ということもあって、準備も色々大変ですが、いい九山にできるよう頑張っています。5月4日に音の泉ホールで開催されますので、よかつたら見に来てください!



卒業生から贈る言葉

今を楽しめていますか？



平成14年度 教育学研究科
教科教育専攻理科教育専修 修了

を救ってくれたのが、職場の先輩でした。何も知らない未熟な私に多くの先輩たちが一から十まで丁寧な教えてくれたからこそ、今の広報「よのうづ」が発行できたのだと思います。

もちろんただ待っていていればアドバイスが降ってくるものではありません。自分から何らかの行動を起こし、困った時に人から与えられるものです。

皆さんも失敗を恐れず、学生時代の間に多くのことを体験してください。最後に皆さんに心がけて欲しいことを述べます。これは、どの職場に行ってもきつと役立つと思います。

- ・自分が苦手な分野の講義でも楽しめる心をもつこと
- ・多くの人とふれあう機会をもつこと

あつという間に過ぎる学生生活。ぜひ楽しんでくださいね!

私は、海沿いの村・米水津(よのうづ)で平成15年4月から広報の仕事をしています。小さな村役場ですので、取材から文章、構成に至るまで1人で行っています。文章が浮かばず、つらさを感じる反面、多くの人に会い、取材することの楽しさを感じています。

かくいう私ものんびりと学生気分です。就職したため、広報関連の知識があるうはがなくなりました。4月当初は、かなりとまどいました。そんな私

附属小学校では、2月12日に不審者対応の防犯訓練を行いました。

平成13年の大阪教育大附属池田小学校の事件は、附属小学校にとっても他人ごとでは済まされない出来事として受け止めてきました。この事件を教訓に防犯マニュアルを作成し、子どもを守る取り組みをすすめています。

本年度は年2回行う避難訓練の1回に防犯訓練を行いました。今年度は校舎改修工事を行っており、マニュアルどおりの訓練はできませんでしたが、地域の西大分交番の指導を受けながら実施しました。

訓練の内容は、昇降口に近い1年2組に刃物を持った男が侵入したという想定で、担任が非常ベルを作動させ、児童の安全な誘導と不審者の捕獲に全教職員が取り組みました。

不審者の侵入は無いことが一番ですが、訓練を重ねることにより児童と教職

員の防犯意識が高まればと考えています。



みんな逃げろ!!

附属小学校・中学校

不審者に対応するための防犯訓練を実施

附属中学校では、2月5日不審者が校内に侵入したことを想定した防犯訓練を警察と協力して実施しました。

訓練内容は、警察への通報体制の確認、生徒の誘導、不審者への対応の3つです。警察官が不審者の役割を演じて、授業中の教室に突然刃物を持った男が侵入したという想定で、訓練とは思えない真剣なものとなりました。2月3日に実技講習を受けていたこともあって、本番さながらの訓練が実施できました。

訓練後は、警察の方から指導と講評をいただきました。1つ目は、いかに早く不審者侵入の情報を察知するか、2つ目は、情報を察知したら、みんなで早く情報を知らせ合つ、3つ目は、警察に早く知らせるということです。

実際に訓練することで、日頃から危険に対する認識と安全に対する意識付けができるようになるとともに、子どもの安全を第一に行動できるようにしたいと考えています。



警察からの注意



不審者を取押さえる先生たち



不審者の逮捕



不審者侵入

花の生い立ちを語る

ボタンサクラ(牡丹桜)



本種は、大島桜を母種とする品種の一つで、観賞用として植栽されます。品種名は牡丹の花のように花弁が幾重にも重なっていることに由来しています。この桜の花は、大分大学と出前の公開講座(おおの夢魅塾)で縁の深い大野町が町花と制定しています。

本品種の花では、雄蕊(おしべ)は正常ですが、雌蕊(めしべ)が、桜の葉を極小形したような葉脈や鋸歯のある緑色葉の形状をしていることがよく観られます。これは、花を構成する雄蕊・雌蕊・花弁・萼等が、葉を祖先として現在の形に進化してきたことを示しています。本品種の場合は、他の植物の花に観られる一般的な雌蕊が、品種改良の途上で逆行(退化)進化し、進化前の葉の様相を示すようになりました。

教養教育だより

大学生の気質と初年次教育

(大学教育開発支援センター運営委員 工学部応用化学科 助教) 井上 高教

大学4年生や大学院生をまがりなりにも教育し卒業・修了させると、まもなく18歳の若者が入学してくる、そんな季節です。大学の一教員として、いろんな個性を持つ学生に、高度な技術や知識を授け、そして社会で立派に活躍できる人材として教育したつもりです。さて学生諸君にとっては如何なものであったでしょうか？

私でも若い教員に入るのが、中堅になるのがよくわかりませんが、この私から見ても最近の若者の考え方は、かなり様変わりしてきています。時代の流れや社会・文化の発展がもたらした好ましい側面もありますが、理解しがたい面も多々あります。しかしこちらの戸惑いとはお構いなしに、これからも毎年学生の様子や思考は、さらに訳のわからないものに変わっていくのでしょう。この変化に大学教員も適切に反応して、教育方法は進化しなければなりません。教員とは大変な仕事です。本年1月に、「初年次教育プロジェクトシンポジウム(長崎大学)」に参加する機会を得て、非常に興味ある講演を聴きました。現在の若者気質の特徴についてです。現代キーワードで表

現すると、たとえば次のようになるそうです。「デジタル的思考」「リセット可能な人生」「縦社会ではなく横社会」、それぞれ、どんな意味かは何となくお分かりいただけるでしょうが、これらに共通するのは「論理的思考を要しない」ということです。「好きだからする」「嫌いだからやらない」と考え行動し、「好きだけど。。。だから我慢する」「嫌いだけど。。。だからやる」などという思考は希薄であり、面倒くさくなったら単純にすぐ「リセット」してしまおうというわけです。さまざまな師や先輩の言葉に耳を傾け、自分なりに考え、その中から自らの生き方を模索していくことはなく、気軽に気を遣わずに適当に友達みたいな感覚を好むというわけです。

このような若者気質の特徴に加え、受験勉強で疲弊した思考のままでは、問題解決能力や何が問題なのかを見出す能力を求めることは到底無理になります。単なる「×選択は直観力はある程度養えるかもしれないが、間違えた場合のやり直しや、未知の課題に対する反応力は育ちません。人生。×だけで、説明や議論がなくても生きてい

けるかもしれませんが。広い社会に飛び込んでいかず、近辺に生活圏を探し、集団を避け、少人数さらには個人でも生きていけるかもしれませんが、対社会、対人間で考えてみた場合、このプロセスを省いてきた、あるいは拒絶してきたのでは、逆にそのプロセスと向き合ってきた者たちと大きく性格が異なってきます。社会性や人間性の基礎は本来なら、幼少期や初等教育期に培われるものですが、現代社会において高等教育に求められるようになってしまいました。「今どき」に甘んじることなく学生諸君には少しでも、論理的思考を持つて欲しいものです。

ところで、最近の大学の特徴といえば、大学入学時に行う「初年次教育プログラム」があります。その内容やシステムのばさまざまであり、そこに各大学の個性がひかれます。本学でももちろん取り組んでいます。特に大学での初年次教育の「少人数教育」は、注目に値します。数多くのメリット(論理的思考の形成、対話・話術・プレゼンテーション技術、または精神的人格の向上)があり、教育効果は非常に高いものがあります。もっとも人的や時間的なコスト(授業の準備など)はかなりのかかりますが、大学全体のシステムが整備されれば、そんなに大変なことではないでしょう。しかし初年次だけにとどまらず、4年間を通した一貫教

育のシステムも是非整備しなくてはならない点です。初年次教育に過度の期待と詰め込みを行っても、たぶん学生は消化できません。初年次教育が入り口としたら、2・3年次でさらに発展させ、4年次においては大きな成果となるようなスキルアップ教育も必要です。学習意欲の喚起、学習手段の伝授、課題の解決とケーススタディなどの年次進行情が考えられます。大学は多くの教育手法の複合体であり、多くの教員が多くのやり方をもっていますので、是非広く公開し、素晴らしい教育システムを構築したいものです。もちろん、事務サイドの多大なる理解とサポートも必要です。

最後に、本学の学生諸君に一言。大学教員も自らの研究に限らず、講義内容・方法、教育の仕方などについて日々研鑽(けんさん)しているので、遠慮せず教員室の扉を叩いて欲しいのです。そして、君らの考えを是非披露して頂きたいのです。学生も大学の構成員であり、教育を受ける権利(義務的な面もあること)を忘れず、授業改善の提案をして欲しいものです。

君たちはそれぞれ、世界にひとつだけの花なのだから・・・

ノースキャロライナ大学 シャーロット校

(The University of North Carolina at Charlotte)

ノースキャロライナ大学シャーロット校（以下、UNCC = The University of North Carolina at Charlotte）は州立ノースキャロライナ大学を形成する全16校のうち、4番目に大きい大学です。学生総数は1万8千人で、世界65カ国からの留学生が在籍しています。

UNCCの前身は、1946年にノースキャロライナ州立夜間短期大学の14分校の一つとして、開校されたシャーロットセンターです。そして、1949年にそれを廃し、シャーロット短期大学（Charlotte College）が創立されました。1964年にノースキャロライナ州議会が短期大学を4年制に格上げする法案を議決し、その翌年同州議会がシャーロット短期大学をノースキャロライナ大学シャーロット校とする法案を議決し、現在に至っています。



図書館外観：立派なJ. マレー・アトキンス図書館の外観。



図書館内：辞書などが置かれているレファレンス・エリア。



日本語を勉強しているUNCCの学生達

学部は、建築学部、文理学部、教育学部、ビジネス・アドミニストレーション学部、工学部、保健・看護学部、情報技術学部の7学部から成っています。そして、それぞれ分野で修士、博士課程の大学院が設けられています。文理学部には日本語も開講されていて、年々受講者が増えています。

広大で静かなキャンパスには学部・大学院の建物以外に、J. マレー・アトキンス図書館や宿舎があり、治安上の点でも、学生は安心して学業に励めます。



協
定
校
紹
介

ルイス・エドワルド・ アイバール病院

(HOSPITAL DR. LUIS EDUARDO AYBAR)

ルイス・エドワルド・アイバール病院は、カリブ海に浮かぶドミニカ共和国の首都サントドミンゴ市に1946年に設立された国内最大の専門医養成機関で、1996年12月13日に旧大分医科大学との間で学術協力協定を締結しました。

この学術協力協定は、従来よりカリブ海地域を中心に行っていた多数の研究における研究者個々の交流が協定として実を結んだものでしたが、最近では国際協力としての関わりも強くなっています。

現在、独立行政法人国際協力機構により医療従事者への医学教育が効果的に行われることを目的として1999年に発足したプロジェクト方式技術協力「ドミニカ共和国医学教育プロジェクト」が進行中で、2000年にはプロジェクトの拠点として、アイバール病院敷地内に日本政府の無償資金協力により、ドミニカ - 日本友好医学教育センターが建設されました。

本学はこのプロジェクトを医学部を中心に支援しており、同センターへ専門家または調査団として放射線医学教官、疫学教官、放射線部技師など、これまで延べ45人を派遣しています。また、同センターから外国人受託研修員として、放射線科医を中心に18人を受入れています。



ドミニカ - 日本友好医学教育センター

留学生のそれから

ちゃん るいり
張 瑞麗

2001年3月大分医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了
現在、河北医科大学看護学科助教授



家族と共に、右端が張さん

日本ではそろそろ桜の季節を迎えていることだと思います。私は、4年前に医学部看護学科老年看護学の研究生として1年半の研究期間を終えた後、医学系研究科看護学専攻修士課程に入学しました。入学式の日、共に入学した友人の末成先生（現、看護学科助手）と2人で由布川小学校の裏手にある桜の木の下で、記念写真をとったことが懐かしく思い出されます。その時の私は、満開の桜の木の下で、少し緊張した顔をして、未来への不安と希望で一杯でした。大学院での2年間は、研究の楽しさと苦勞の両方を経験することができ、とても充実した留学生活でした。看護学科の先生方のご指導や院生のサポートはもとより、主人と息子の力も借りながら、やっと無事に修了の日を迎えることができた時には、ほっとしたと言うよりも、『これからが始まり！』という思いを強く抱いたことを覚えています。

帰国後、私は中国河北省石家荘市にある河北医科大学の看護学科の教員として、看護教育に携わることになりました。留学前は同附属病院で看護師として勤務していた私にとって、それまで経験したことのない分野で、戸惑いがありましたが、3年余の留学経験での学びが後押しとなり、教育の仕事に就くことを決心しました。河北医科大学は1915年に設立され、89年の歴史がありますが、看護学科は開設されてまだ間もない状況にあります。そうした中で、私は、看護学科の教員の1人として、留学時に学んだことを活かしながら、学

生の豊かな人間性の養成を目指したカリキュラムの構築、授業設計、教授方法の工夫等に取り組んでいます。特に、カリキュラムを組み立てる仕事の中で私が強く推し進めたのは、近年高齢化がすすむ中国の将来を見据えて、「老年医学」と「老年看護学」を科目として立ち上げたことです。私は、修士論文として「中国石家荘市の壮年期住民がもつ高齢者に対する介護意識」というテーマに取り組みしました。石家荘市は私の居住地ですが、今では65歳以上の老年人口が10%以上を占めるようになり、高齢者介護の問題が近い将来生じることは間違いありません。帰国後もこの研究を継続していますが、研究と教育を通して学生と共に高齢者の健康とその支援について考えたいと思っています。

まだまだ教育者としては初心者ですが、指導教授であったマーナ豊澤英子先生（現、McMaster大学）の看護教育理論の授業、老年看護学の講義・演習、臨地実習の指導などで学習した看護基礎教育の方法を活用し、自分でもさらに知識を得ながら、よりよい看護教育を目指したいと思います。大変な日々ですが、疲れていても、学生の笑顔を見ると、ほっとした気持ちになるなど、教師としての満足感が少し分かるようになりました。

『大分は私の第二の故郷』といつも思っています。満開の桜、温泉、静かな町、そして友人の笑顔、いつかまた大分の皆様に会えることを楽しみにしています。



今回も前回同様、消防署員の説明に留学生が通訳を行い、ユーモアのなかにも真剣に取り組んでいました。

これは、火災や地震が発生した場合に、迅速に対応できるよう安全な避難路を確認するとともに、危機管理意識の高揚を図ることを目的として実施したもので、当日は土曜日にもかかわらず、多くの留学生が参加し、ビデオによる防火意識の高揚、消防署員による講話、避難はしごによる避難訓練、火災報知器の取扱いおよび消火器による消火訓練を行いました。

平成15年12月13日に、構内の留学生寄宿舎、大分市内にある国際交流会館で留学生による消防訓練を実施しました。

留学生による 消防訓練

保健管理センター

健やかな学生
生活を送るために



センター入口壁画

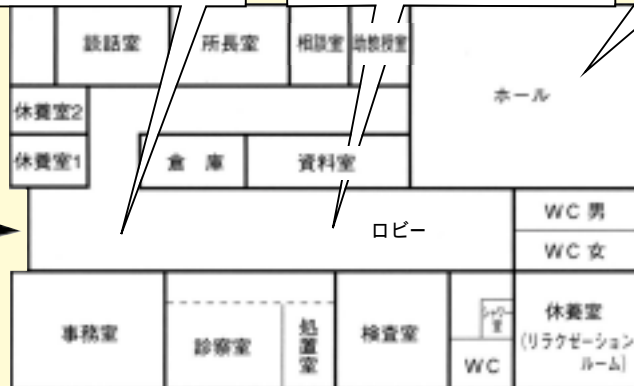
保健管理センターでは、充実した学生生活を送る事ができるように、次のようなことを行なっています。気軽に訪ねてみてください。

- 健康診断：毎年4～5月に健康診断をします。
- 健康相談：困った事、心配な事など健康面の相談に応じます。
- 応急処置：風邪、腹痛、擦り傷などの応急処置をします。
- カウンセリング：秘密厳守で専門家が相談に応じます。
- 休養：具合が悪い時の休養ベッドがあります。
- 健康管理：自己管理に役立つ機器や情報があります。
- 健康診断証明書発行

利用時間 月曜から金曜，8時30分～17時15分

スタッフ紹介 旦野原，挟間とも非常勤医師（整形外科，婦人科，精神科等），カウンセラーがいます。

保健管理センター			
教授（内科医師）	寺尾 英夫 所長（主に旦野原キャンパス）		
（旦野原キャンパス）		挟間健康相談室（挟間キャンパス）	
教授（精神神経科医師）	藤田長太郎	助手（内科医師）	油布 文枝
看護師	甲斐 道子	保健師	小池 恵
専門職員	本田麻千子	非常勤事務職員	



保健管理センター平面図（旦野原キャンパス）

場所と連絡先

旦野原キャンパス：学生会館横
 TEL 097-554-7476
 FAX 097-554-7479
 挟間健康相談室：学務課向かい
 TEL 097-586-5552
 FAX 097-586-5552

研究紹介

エネルギーエレクトロニクス

工学部電気電子工学科講師

佐藤 輝被
さとう てるかず

■はじめに

私の専門は電子工学です。電子工学の中でもエネルギーエレクトロニクスという分野の研究に従事しています。エネルギーエレクトロニクスという言葉は比較的新しく、従来のパワーエレクトロニクスが強電分野のみを対象としていたのに対し、弱電分野も含めたあらゆるエネルギーの変換、伝送、制御に関する研究分野です。弱電機器が研究対象に含まれるようになった背景には、使用台数の著しい増加というものがあります。一台あたりの消費電力がいくらか小さくても、使用台数が増大すれば、その消費電力は無視できなくなってしまう。つまり、エネルギーエレクトロニクスの最大のテーマは「省エネルギー」なのです。そして、私はこのような研究分野の中で特に次に紹介するような研究を行っています。

■電子機器用 スイッチング電源の研究

小型・軽量で高効率の電源の研究を行っています。数年前までは高周波で

動作するスイッチング電源の効率改善と制御方式の研究を行っていました。最近では、低電圧・大電流の電源の過渡応答の改善および制御方式の研究を行っています。応用例はCPU用電源等の待機モードを有する電子機器で、スリープモードからアクティブモードに移行する時、あるいはその逆に発生する出力電圧の過渡変動を押さえる回路方式と制御方式の研究を行っています。

■デジタル制御による 電力変換装置の研究

近年、ほとんどの電子機器はデジタル化されてきています。これらの電子機器本体と電源部分のインターフェースを容易にするためにデジタル技術を用います。その際、電源の制御もデジタルで行ってしまおう、というものです。そうすることで、機器の各種情報の取得が容易になり、またメンテナンス性も向上します。

■直流ブラシレス 電動機用電源の開発

業務用あるいは家庭用冷蔵庫の直流

ブラシレス電動機用の電源の開発を行っています。直流ブラシレス電動機は一種のインバータです。通常の電源と同様に高効率、高力率、低ノイズが要求されますが、直流電動機特有の問題があり、その解決のための研究を行っています。

■電気自動車用バッテリー 充電器の研究

接触・非接触を問わず、高電圧・大電流の充電器の研究を行っています。大電力となりますので、高効率のみならず、高力率が要求されます。また、バッテリー電圧バランス回路の研究も行っています。これらの研究でも、回路方式と制御方式の検討が主な内容です。

■太陽光発電システムの研究

太陽電池パネルを用いた発電システムの研究です。太陽電池の電力を、一旦、蓄電池に充電し、その直流電圧を交流電圧に変換し、商用電源との連携を行う方式の研究をしています。研究の内容は、最大電力追従方式と、電力変換回路方式です。

■スイッチング電源用 シミュレータの開発

周期的に繰り返す回路を解析するためのソフトウェアを開発しています。

電力変換回路をSPICE等の汎用のシミュレータで解析する場合、回路の定常状態を求めるまでには膨大な時間がかかります。開発中のソフトウェアはそれを数サイクルで計算してしまいます。また、回路の伝達関数や大振幅過渡応答など、専用シミュレータの利点をいかした解析が行えます。

■おわりに

以上、現在の私の研究を簡単に紹介しました。これらの研究成果が21世紀の人間社会に役に立つものになるよう、今後も努力していきたいと考えています。



横断検索が利用可能になりました。

平成15年12月より大分県立図書館，大分大学附属図書館本館，大分大学附属図書館医学分館の3館間の横断検索ができるようになりました。これを利用すると上記3館のOPAC（コンピュータによる図書館資料目録）を一度に検索することができます。

附属図書館のホームページの資料検索から横断検索を選択するか，次のURLにアクセスしてください。

<http://inazumi.lib.oita-u.ac.jp>

利用方法は画面中の各helpを参照してください。

検索結果は始め各館別のヒット件数が表示され，そこから各館別の一覧表示にいきます。また，そこで資料別図書館一覧表示をクリックすると資料別の各館の所蔵状況が表示されます。なお，参加館は今後随時増やしていく予定です。

検索画面

図書館だより

大分都市医師会から医学専門書を寄贈



↑
大分都市医師会の山下副会長(左)から寄贈図書目録の贈呈を受ける中山学長(右)

大分都市医師会から学生用図書21冊が寄贈され、その贈呈式が3月10日(水)14時から学長室において行われました。

同医師会から毎年学生用図書の寄贈を受けていますが、今年度は、学生のための基礎的な医学専門書21冊を寄贈していただきました。



寄贈していただいた図書は医学分館3階大分都市医師会寄贈図書コーナーに配架しておりますのでご利用ください。

↑
8年間にわたり寄贈された図書の一部

統合記念式典実行委員会から図書を寄贈



医学分館に寄贈された図書

統合記念式典実行委員会から、本館には一般教養図書72冊、医学分館には、新刊書240冊（金額的にはほぼ同額）が寄贈されました。

なお、医学分館に寄贈された図書には、小説や一般向けに書かれた健康管理入門書、ベストセラー等が多く、一般利用者（近隣の市民）も貸出が受けられる一般利用者コーナーに配架しましたので、どうぞ利用下さい。

学生・教職員のみならずも利用できますので、勉強や仕事の合間のくつろぎのひとときを読書でお過ごし下さい。

近世大分の産業開発(1)

干鰯(ほしか)

大分大学理事(教育担当) 豊田 寛三
とよた かんぞう

新産業・新技術の開発は、現代日本の大きな課題です。大分県地域もそして大分大学でもそのために努力を続けています。近世において、諸藩は「国産奨励」の名のもとに特産品を形成しました。全国的に言えば、薩摩(後には讃岐)の砂糖、阿波の藍、出羽の紅花などがよく知られています。豊後や豊前ではどうなっていたのでしょうか。

「佐伯の殿様 浦でもつ」と俗にいわれるように、佐伯藩にとって浦方(沿岸部)の資源は極めて重要な意味をもっていました。

「大坂肥物商組合一班」という大坂の肥料問屋の沿革についてまとめた史料が大阪市立図書館に所蔵されています。そのなかに「諸干鰯ノ内、宇和・佐伯・臼杵・佐賀関、右四ヶ所の干鰯ハ、格別ノ物故、此四ヶ所重(主)ニ引受候問屋共、申通りニテ買取申すべく様」とあります。これは、寛政元年(1789)の記載であり、かつては豊後水道に面した4ヶ所の干鰯は、極上品であり、まさに売り手市場であったと述べています。

干鰯は、鰯・鰯などの小魚からつくる魚肥です。畿内や瀬戸内地域で主として栽培され、特に肥料を欲する木綿の栽培には不可欠の金肥でした。木綿は、それまで麻が用いられていた庶民の着物に仕立てられ、急速に普及していきました。

豊かな海の恵みと天然の地形を生かした新商品が豊後水道産の干鰯でした。

急性アルコール中毒にご用心!!

「イツキ飲みは死ぬこともある危険な行為」

春になると新入生歓迎コンパが花盛りです。

毎年のことですが、急性アルコール中毒で意識不明になり救急車で救急病院に運ばれる学生がいます。

新聞の全国版には急性アルコール中毒で大学生の死亡記事を見ることもあります。輝かしい将来ある大学生がこのような事件で死亡してはあまりにもかわいそうです。

お酒を飲ませる者、飲む者、飲まされる者、アルコールの知識を充分に知った上で行動してほしいものです。

アルコールは嗜好品ですが、楽しいコミュニケーションの1つの道具として有益な効果があります。しかし、時として凶器と化すこともあることを認識して欲しいものです。いずれにしてもアルコールは楽しい飲み物でありたいものです。

注!! 20歳未満の人の飲酒は法律で禁止されています(未成年者飲酒禁止法)。



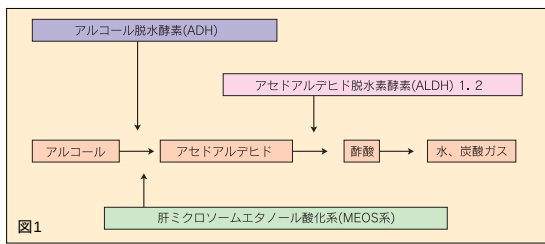
大分大学保健管理センター
所長 寺尾 英夫

アルコール代謝 (図1)

アルコールは胃と小腸で吸収され、吸収されたアルコールは門脈を経て肝臓に運ばれ、そこで代謝されます。代謝には酵素の力が必要で、図1のような酵素が働きます。

二日酔いや吐き気はアセトアルデヒドの作用です。日本人にはアセトアルデヒドを酢酸に分解する酵素ALDH2が欠損している人が多く、お酒が飲めないという人は、この酵素の欠損のためです。約44%の日本人が欠損あるいは少ないといわれています。

ヨーロッパ人、アメリカ人、アフリカ系黒人には、この酵素欠損者はほとんど

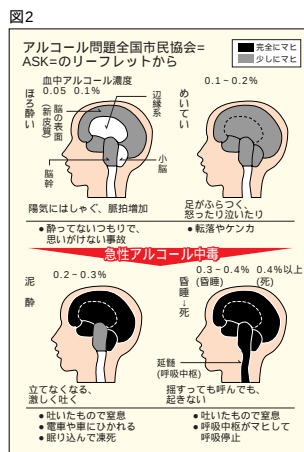


どいません。この酵素欠損・欠乏を簡単に調べる方法がアルコール・パッチテストです。

したがって、日本人の約5割は酒が飲めるタイプ、4割は訓練すると飲めるタイプ、1割はいくら訓練しても飲めないタイプといわれています。

肝臓でのアルコール処理能力には限界があり、ビール大瓶1本(日本酒1合)が代謝されるのに約3時間かかります。

アルコールの作用 (図2)



アルコールは、中枢神経抑制作用、一種の麻酔薬です。

まず理性や知性を司る大脳新皮質をマヒさせます。抑制が取れるため気分爽快になったり、明らかにったり、大胆になったりします。(ほろ酔い)

この頃が止め時

・大脳辺縁系にも抑制作用が及びます(酩酊)。千鳥足、何度も同じことをい

ったり、記憶がとぎれます。

・さらに、血中濃度が増すと旧皮質や小脳がマヒします(泥酔)。

・さらに、血中濃度が増すと脳幹と脊髄系がマヒ、いわゆる全身麻酔と同じ状態になり、さらに延髄までマヒがくると呼吸停止となります(昏睡→死)。

アルコール一気飲み

同じ量を短時間で飲むのと、時間をかけて飲むのでは、アルコール血中濃度が全く違います。一気飲みは短時間に飲むため血中濃度が急激に上がり、脳のマヒが一気に進行します。ゆっくり飲むと、ほろ酔いや酩酊の時期を自分で意識するため泥酔や昏睡にはそうなりませんが、一気飲みの場合は意識清明からほろ酔いや酩酊を意識しないまま一気に泥酔や昏睡に進んでしまうので危ないのです。

大学生らまた飲み過ぎ

救急車、6人運ぶ

寮の祝賀会で急性アル中

大分大生が死亡



大分合同新聞掲載 92.4.23



大分合同新聞掲載 92.5.16

大分大学関連 新聞掲載記事
(平成15年12月1日～平成16年2月29日)

12月			
大分駅南「まちなか研究室」開設	大分合同	12/1，西日本	12/3
推薦入試	大分合同	12/3	
中野重行附属病院長を紹介	大分合同	12/4	
事務職員が不正経理	大分合同，西日本，朝日，毎日，読売，日経	12/6	
教育福祉科学部前田明教授研究紹介	朝 日	12/6	
経済学部が湯布院をテーマに学術講演会	大分合同	12/8	
医学部歯科口腔外科医師がベトナムでボランティア医療	大分合同	12/8	
大分大学が参加する都市型リサイクルシステムの共同研究	大分合同	12/9，12/17	
附属中のボランティア同好会が「子ども将棋チャレンジ講座」開催	大分合同	12/11，1/9	
大分商業就職・進学セミナーで大分大学教授が講義	大分合同	12/11	
別府大学短期大学部から初めて大分大学の大学院試験に合格	大分合同	12/12	
大分大学生林業体験ボランティア	毎 日	12/13	
医学部腫瘍病態制御講座川原克信教授を紹介	大分合同	12/14	
医学部で大学病院治験推進セミナー	大分合同	12/15	
附属中でクリスマスコーラスコンサート	大分合同	12/16	
元経済学部長の故白木原孝臣名誉教授の遺族の寄附で大分合同福祉事業団が奨学金を創設	大分合同	12/16，1/30	
工学部森口充瞭教授が鶴崎高で講演	大分合同	12/17	
全国産学官連携会議を開催	日刊工業	12/18	
医学部で防災と防火訓練	大分合同	12/18	
豊田寛三副学長を紹介	大分合同	12/19	
大分大学生，ひき逃げ容疑者逮捕の協力で感謝状	大分合同	12/19	
教育福祉科学部工藤修一講師の研究紹介	朝 日	12/20	
V.B.L.アントレプレナーセミナーfor kidsの収益を歳末助け合いへ	大分合同	12/20	
大分大学マンドリンクラブ定期演奏会	大分合同	12/21	
総合科学研究支援センター川本文彦教授を紹介	大分合同	12/25	
大嶋誠教育福祉科学部長の随筆	大分合同	12/25	
1月			
附属幼稚園児の列に車突っ込む	大分合同，朝日，西日本	1/9	
九州地区産学官連携シンポジウムで佐藤誠治学長補佐がパネリスト	大分合同	1/14，1/16	
県内大学写真部連盟合同写真展	大分合同	1/15	
大学入試センター試験	大分合同	1/16，1/17，1/18，1/19	
福祉科学研究センター講演会を開催	大分合同	1/20	
医学部感染分子病態制御講座高岡宏行研究室を紹介	大分合同	1/22	
水泳部がAPU水泳部と交流大会	大分合同	1/23	
医師名義貸し	大分合同	1/23，1/29，朝日	1/23，1/24，西日本 1/24，2/24，読売 1/24
第12回メンタルヘルスパネルディスカッションで教育福祉科学部山岸治男教授がコーディネータ	大分合同	1/23	
ゴスペルライブに大分大学生協力	大分合同	1/23	
市民公開講座で，医学部藤岡教授が司会，橋本剛講師，村上和成講師が講演	大分合同	1/26	
国公立大2次試験願書受付	大分合同	1/26	
日本熱帯医学会九州支部大会で，医学部学生がフィリピンでの病院実習を語る	大分合同	1/29，2/9	
人口生命とロボットに関する国際シンポジウムを開催	大分合同	1/29，読売	1/30
経済学部で退官記念講演会	大分合同	1/29	
2月			
附属養護学校で公開研究発表会	大分合同	2/1	
台湾人留学生在が県日華親善協会から新年会に招待され出席	大分合同	2/2	
別大マラソンで倉掛重精教授のグループが医学調査	大分合同	2/2	
新工学部長に江崎忠男教授	大分合同	2/4	
2次試験出願締め切る	大分合同	2/5	
工学部福祉環境工学科建築コース井上正文研究室の研究紹介	大分合同	2/5	
大分大学教育福祉科学部卒業研究発表プロジェクト展開催	大分合同	2/5	
児童虐待を考えるシンポジウムで教育福祉科学部森望助教授が事例報告と討論	大分合同	2/5，2/7	
教育福祉科学部4年一ツ氏愛さんの卒論で車いすマラソン大会の経済効果など調査	大分合同	2/6	
県教委主催「みんなで考える大分の教育シンポジウム」で，教育福祉科学部山崎清男教授がコーディネータに	大分合同	2/11	
元大分大学教授佐々木均太郎氏が死去	大分合同	2/17	
国公立2段階選抜	朝 日	2/19	
教育福祉科学部川野田實夫教授が環境講演会で講演	大分合同	2/19	
工学部福祉環境工学科建築コース佐藤誠治教授随筆	大分合同	2/19	
工学部応用化学科森口充瞭教授研究紹介	朝 日	2/21	
経済学部大羽宏一教授紙面批評	大分合同	2/22	
医学部感染分子病態制御講座西園晃教授が鳥インフルエンザについて話す	大分合同	2/23	
豊田寛三副学長紹介	読 売	2/24	
前期日程一般入試	大分合同	2/25，2/26	
経済学部の学生懸賞論文表彰式	大分合同	2/26	
江崎忠男工学部長紹介	大分合同	2/27	
工学部宇津宮孝一教授が電子自治体への意見	大分合同	2/29	

平成16年度 大分大学 学年暦			
前学期開始	4月1日(木)	後学期開始	10月1日(金)
春季休業	4月1日(木)～4月7日(水)	開学記念日	10月1日(金)
入学式	4月5日(月)	後学期授業開始	10月4日(月)
新入生ガイダンス	4月6日(火)～4月7日(水)	冬季休業	12月24日(金)～1月6日(木)
新入生オリエンテーション	4月7日(水)	大学入試センター試験	1月15日(土)～1月16日(日)
学生定期健康診断	4月上旬～5月上旬	個別学力検査(前期日程)	2月25日(金)～2月26日(土)
前学期授業開始	4月8日(木)	個別学力検査(後期日程)	3月12日(土)
夏季休業	8月1日(日)～9月30日(木)	卒業式	3月25日(金)
前学期終了	9月30日(木)	後学期終了	3月31日(木)

平成16年度大分大学公開講座・公開授業

公開講座				
	講座名	受講対象者	募集人員	開設期間
	初歩的な書道技法を学ぶ	市民一般	30	5/19～6/30
出前講座	大野路夢魅塾	大野・緒方町民及び周辺住民	30	6/6～2/13
	米水津塾	米水津村民及び周辺住民	50	6/6～2/13
	環境問題の基礎-化学物質による汚染をどのように防ぐか- 変わりつつある私達のくらしと健康	市民一般	50	7/1～7/15
		市民一般	70	7/21～8/25
スポーツ教室	泳げない男の子の水泳教室	小学校児童3～4年生男子	10	7/26～8/1
	泳げない女の子の水泳教室	小学校児童3～4年生女子	10	7/26～8/1
	ちびっこスイミング男子	小学校児童4～5年生男子	15	7/26～8/1
	ちびっこスイミング女子	小学校児童4～5年生女子	15	7/26～8/1
	子どもスイミング	小学校児童4～6年生男子・女子	20	7/26～8/1
	化学技術体験講座	高校生	30	7月下旬～8月上旬
	理科や算数を使って親子で遊ぼう	小学校5～6年生とその保護者	15組	8/7～12/11
	親子関係に使える心理学ワークショップ	市民一般	50	9/3～10/1
	表現の魅力に迫る	市民一般・学生も可	40	10/2～11/13
	グローバル化と企業経営	市民一般	70	10/7～11/18
	ベトナムの歴史と文化	市民一般	30	5/18
	大人のための学び方講座-大学活用のすすめ-	市民一般	10	10/14～11/11
	親が学び成長するための夜なべ子育て講座	市民一般	20	7/17～8/25

公開授業			受講対象者：市民一般、募集人員：10名		
講座名	開設期間	共通 / 専門	講座名	開設期間	共通 / 専門
音楽の魅力Ⅰ	前期・全	共通	アルコール関連問題入門	後期・全	共通
現代天文学とSETI	前期・全	共通	健康保持の社会システム	後期・全	共通
化学物質と環境影響	前期・全	共通	卵から成体へ	後期・全	共通
森と人間の文化史	前期・全	共通	音楽の魅力Ⅱ	前・後期・全	共通
住生活の近代	前期・6回	共通	日本国憲法	後期・全	共通
現代社会と企業-会社のしくみとつくり方-	前期・全	共通	人間・労働と技術の現代史	後期・全	共通
企業と労働	前期・全	共通	アメリカ文学	後期・6回	共通
ヨーロッパとイスラーム社会	前期・全	共通	機械と文明	後期・全	共通
福祉と技術	前期・全	共通	生涯学習社会を創る	後期・全	共通
エレクトロニクスの世界Ⅰ	前期・4回	共通	英語科授業論	後期・全	専門
生涯学習論入門	前期・全	共通	哲学概論Ⅰ	後期・全	専門
応用代数	前期・全	専門	海浜環境生物学	後期・全	専門
球技学習指導論	前期・全	専門	家庭科指導法(小)	後期・全	専門
宇宙科学	前期・全	専門	生活環境とホルモン	後期・全	専門
住環境論	前期・全	専門	ソフトテニス	後期・全	専門
哲学概論Ⅱ	前期・全	専門	精神保健学Ⅱ	後期・全	専門
臨床心理学	前期・全	専門	障害児臨床概論	後期・6回	専門
人間関係論	前期・全	専門	憲法Ⅱ	後期・全	専門
人間と環境	前期・全	専門	中国文化論	後期・全	専門
企業取引法Ⅰ	前期・全	専門	開発経済論	後期・全	専門
経営学Ⅰ	前期・全	専門	比較経営史Ⅱ	後期・全	専門
国際関係論Ⅰ	前期・全	専門	簿記入門Ⅱ	後期・全	専門
アジア経済発展論	前期・全	専門	企業取引法Ⅱ	後期・全	専門
都市経営論Ⅰ	前期・全	専門	経営学Ⅱ	後期・全	専門
労働関係法Ⅰ	前期・全	専門	国際関係論Ⅱ	後期・全	専門
憲法Ⅰ	前期・全	専門	都市経営論Ⅱ	後期・全	専門
簿記入門Ⅰ	前期・全	専門	労働関係法Ⅱ	後期・全	専門
電気工学概論	前期・全	専門	数値解析	後期・全	専門
教育本質論	前期・全	専門			

お知らせ

平成15年度定年退職者

次の方々が、平成16年3月をもちまして、定年退職されました。皆様には長年にわたり、本学の発展、充実に尽力いただきました。これからも、大分大学を温かく見守ってください。

教育福祉科学部

荻野 源吾 教授
佐藤 新治 教授
森 長徳 教授

経済学部

野村健太郎 教授
山本 勝 助教授

医学部

永山 治男 教授
米田 紘一 教授

工学部

渋谷 壽一 教授
田中 啓一 教授

事務局

翁長 武十四 学生支援部長
岩 祥光 施設管理課長
後藤 卓生 施設管理課ボイラー技士

大分大学広報誌愛称決定

統合創刊号で募集しました大分大学広報誌愛称に、16件の応募がありました。内、6件は大分東明高校生の応募でしたので、応募資格外であったため参考資料とさせていただきます。

応募してくださった皆さん、ありがとうございました。今後とも、大分大学広報誌をよろしくお願いいたします。

さて、大分大学広報誌の愛称は「BUNDAI・OITA」(ブンダイ・ドット・オオイタ)となりました。この愛称の応募者は、なんと大学が統合する以前、大分大学広報誌の編集に深く関わっていました工学部知能情報システム工学科の宇津宮孝一教授です。先生の広報誌に対する思いがにじみ出ていたのでしょうか。

蛇足ですが、編集委員会における選考では、応募者名は伏せて、1時間以上にわたる厳正な討論の上、この愛称に決まりました。

愛称の由来は次のとおりです。

旧大分大学広報誌の愛称が「BUNDAI」ですが、BUNは、文化のBUN、豊後のBUN、豊かの音読みのBUN、DAIは、大きいDAI、大学のDAIの意味であり、豊後の国の、文化の薫りが、豊かな大学として、改めて命名したいと思います。

しかし、どこにあるかわからないし、大分にあるからという理由で統合後、新しい大学名称を「大分大学」にしたので、インターネットでの国際性をもつ表現形式も取り入れ、(ドット)OITA(大分)を後に付け、「BUNDAI・OITA」(ブンダイ・ドット・オオイタ)としました。

採択通知は、例のスパムメールかと思いました。東京からの帰り、パソコンで募集を見た瞬間にOITA空港の表示が目に入ったのが事の発端です。広報誌を担当したことがあるネットワーク研究者としては、「BUNDAI・(ドット)OITA」は自然な着想でした。



編集後記

この4月1日より、大分大学は「国立大学法人大分大学」として新たにスタートしました。新聞等でご存じのように、これまでの大学のあり方とさまざまな点で違いがみられます。今号では法人化準備委員会委員長の言葉をはじめ、組織について、学生のみなさんにとつての法人化、制度の変革などを特集記事にしています。じっくりご覧ください。

また、この新しくなった大学に入学された新入生のみなさん、入学おめでとうございます。本誌は昨年10月の統合後にリニューアルして2号目となります。大学に関わるさまざまなことをお知らせしていきますので、活用してください。

上記にもありますように、この広報誌の愛称が決定しました。みなさんのご応募、ありがとうございます。早くみなさんがこの愛称で呼んでくれるようになるといいなと思っています。新大学の発足とともに広報誌も生まれ変わりました。みなさんのお役に立つ情報を提供できるように編集委員一同今後も努力していきますので、末永くお付き合ってください。また、ご意見などもどんどんお寄せください。

広報誌編集専門委員会委員 本谷るり
経済学部助教授

分大アートシーン



平成15年度大分大学教育福祉科学部
芸術表現系卒業研究発表プロジェクト
総合表現コース、美術選修、大学院美術教育専修共催

芸術表現を学ぶ学生たちの卒業研究発表、「卒業プロジェクト」も今年で2回目となりました。

1月25日、身体表現（創作ダンス）発表会が学内の第3体育館、美術・書表現の展示系が2月5日から8日まで大分市アートプラザで、音楽表現が卒業演奏会として2月7日に大分県立総合文化センター・音の泉ホールで開催。アートプラザでは展示空間の中で身体表現の学生によるダンスパフォーマンスもあり「総合表現」という名にふさわしい場となりました。

それぞれ表現方法、ジャンルは多彩で個性的。日常生活の中で自分自身を見つめながら作り上げた作品から、「今」という時代を生きる学生たちの等身大の表現が見られました。

(主 題)

・表紙撮影／教育福祉科学部助教授 久間清喜
この広報誌は、大分大学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp>) にも掲載されています。
この広報誌は、本紙100%の再生紙を使用しています。